

<http://sundaypunch.prepys.com/archives/2009/12/13/espino-to-pursue-case-versus-san-roque-dam/#STS=g38o8m6c.ek6>

## Espino 州知事、サンロケダムに対する訴訟を追求する構え

サンデーパンチ紙

2009 年 12 月 13 日

リングエン発 (パンガシナン) 州知事は、10 月のパンガシナン州での大洪水がもたらした損害について、サンロケパワー社 (SRPC) とフィリピン電力公社 (NPC) の当局者らに説明責任を果たすよう求める計画から手を引いたわけではない。

Amado Espino 州知事は、水曜、(州都)リングエンで慌てて記者会見を開き、台風ペペン(17号)の絶頂期にサンロケダムの操業と管理を直接監督していた NPC やその他の政府機関・個人に対する刑事および民事訴訟を追求する計画を州政府が中止したことは一度もなく、また、中止する気もないと繰り返し主張した。

彼は、同州の司法担当である Geraldine Baniqued と行政担当である Rafael Baraan が起因となった陳述に基づき、パンガシナン州がサンロケに対する訴訟計画から手を引いた、という日刊紙で取り上げられた記事について明確化する発表を行なった。

「それは真実ではない。」と彼は地元メディアに語った。

彼は、「州は司法手段を追求する。そうすることによってのみ、63 人の死亡者、また、ホームレスにさせられたり、生活の糧やその他の貴重な資産を奪われたりした数多くの家族のための正義を求めることができる。」と述べた。

Baniqued 氏と Baraan 氏は双方とも、例の陳述が彼らに起因するものだと認めなかった。後者は記者に話をしたことを認めたが、州が計画から手を引くと彼が述べたことも、ほのめかしたこともないことを明確化した。

Espino 州知事は、同州の司法担当官および行政担当官の陳述は個人的な見解であり、州政

府の見解ではないと指摘しながら、起訴の遅れは行政手続きのある要件のためであり、州政府がすでに訴訟の棚上げを決めたという意味に解釈されるべきではない、と説明した。

Espino 州知事は、州評議会の弁護士らと州の司法局が共同チームを結成し、NPC と SRPC 双方に対する告訴を依然として準備中である、と述べた。

彼はまた、告訴の準備が整い、彼のオフィスに提出されれば、すぐに裁判を起こす予定である、と加えた。

報じられているところによれば、Baniqued 氏は、NPC、SRPC 双方に対する州の告訴に向け、最初の草案を完成させたが、45 億ペソ（訳者注：約 90 億円）の損害賠償請求に必要な 1 億ペソの訴訟費に関し、まずは知事に相談しなくてはならないということだ。

彼女は、Marlyn Primicias-Agabas 副知事は以前、NPC、SRPC 双方に対し、差し止め命令を要求する訴訟を別途起こすことを望んでいたが、裁判の要件として求められる差し止め保証費がひどく高いと知った、と述べた。

Espino 州知事は、より重要なのは、パンガシナン州の 34 町と 3 市で洪水を引き起こす結果となった前代未聞の水量を放流した責任者らの民事的責任よりも刑事的責任である、と強調した。

Espino 州知事は、NPC と SRPC 双方が、Loren Legarda 上院議員が議長を務める上院の気候変動委員会により主催された一連の調査の中でも、（責任者の）名前を挙げあい、著しく責任逃れをしている、と述べた。

Espino はまた、同告訴が、ダグパン市の地方裁判所でダグパン市の弁護士グループが、NPC と SRPC に対し損害賠償と一時差し止め命令、もしくは、仮差し止めを求めた民事訴訟とは別のものになるだろう、と加えた。

Teodoro Regino 退職判事の率いる 26 人の弁護士のグループは、損害賠償として、260 万ペソを求めている。